

これを理解させるには、教師又は児童の示範による方法、コンセプトフィルムや、VTRを見せて記憶させる等の方法がある。

○ 鉄棒の各欄の前に二列に並ばせ「ためし」の指導をする。(25分×1)

その結果、児童たちの技能に個人差が見られ、できる児童とできない児童とがでてくる。

そこで、能力別グループ指導が考えられる。

- ・ たやすくできる者——A班
  - ・ どうにかできる者——B班
  - ・ どうしてもできない者——C班
- に分け、グループごとにプログラムを作成する。

○ 能力別の三班に分かれ、目標に向かって反復練習をする。(20分×2)

- ・ A班—ひざを伸ばしてできる。
  - ・ B班—たやすくできる。
  - ・ C班—どうにかできる。
- できなかった児童たちに対しては、次のような点を配慮した指導がたいせつである。

- ・ 児童のつまずきに応じた助言
  - ・ 補助具を使った指導
  - ・ 尻を押し上げる補助
  - ・ 「く」の字の練習
  - ・ 友人同士の補助
- 等いろいろな方法を用い、成功感を味わわせる。

○ 各班ごとに定着度を見せ合う。

(25分×1)

できたときは昇格させ、みんなではめたたえる。

○ 体育の生活化をめざす。(20分×1)  
休憩時や自由時等にも協力し合っ  
て練習し、生活化をめざした指導  
をする。

〈例〉とび箱運動と練習カード  
学習効果をあげるためには、児童  
生徒の能力に応じた、わかりやすい  
目標を与えることが必要である。

小学校五学年の、とび箱運動の練習  
カードの例を示すと、次のように  
なる。

(五) 五年台上前転練習カード参照  
個人の記録を生かすこと。

児童生徒が学習活動中にみせた  
変化、特に進歩について教師は忘  
れずに記録するとともに、学年に  
応じて、児童生徒にも活動記録を  
とるように指導することがたいせ  
つである。

教師の記録の種類としては、

- ・ 個人カードによるもの
  - ・ グループノートによるもの
  - ・ チェックリストによるもの
- 等が考えられるが、記録の目的  
によって創意工夫し、生かされる  
記録にすることがたいせつである。  
個々の児童生徒の実態を、客観  
的にとらえ、具体的に記録された  
確かな資料による、タイミングの  
よい指導とその評価とは、児童生  
徒と教師を固く結びつけるきつな

5年 台上前転練習カード 5年 組

順 序	気をつつけるところ	しるし	
		自・友	教師
1	<p>高くひき上げる</p> <p>①②③の順につけて回る</p>		
2	<p>せなかをできるだけまく</p> <p>こしがぐるように手をつく</p>		
3	<p>手を平行につく</p> <p>おなかを見るように回る</p>		
4	<p>強く高く</p> <p>手が台からはなればひざをのばしている。</p>		
5	<p>大きく高く</p> <p>ポーン クルトン 調子よく</p>		

(六) ともなるものである。  
グループ活動を活発にする。  
集団とは、相互にはたらかけ  
合う者の集まりである。単なる個  
人の集まりであってはならない。

体育におけるグループ活動は、  
形式ではなく活動内容がたいせつ  
である。グループという特殊条件  
の中で、具体的な活動を通し、相  
互に自分を変容させ、所属するグ

ループの活動の発展向上に努める  
ことがたいせつである。そのため  
には、各人の役割分担、グルー  
プとしての活動方法等、明らか  
にすることが重要である。

小・中学校を区分しないで、授業の  
充実を図るための留意点等につい  
て述べたが、これまでの指導法を  
再検討する資料として活用し、体  
力と運動技能の向上に努力して  
ほしいものである。